

# 授業時間, どう確保する?

2020年度から小学校で英語が教科化されるにあたり, その授業時間をどう確保するかが, 大きな課題となっています。本特集では, これから授業時数がどう変わるのか東仁美先生にお聞きし, 先行的に時間を確保して授業をしている学校をご紹介します。

撮影: 伊東俊介 (P2-4, 8-9), 鈴木俊介 (P5-7)



## 授業時数ってどうなるの?

小学校外国語・外国語活動の授業時数に関わるさまざまな疑問について, お聞きしました。

回答者: **東仁美** 聖学院大学欧米文化学科准教授  
ひがし・ひとみ 児童英語教室を主宰するかたわら, 長年母親ボランティアとして小学校英語活動の指導に関わる。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。『小学校英語 はじめる教科書』(mpi松香フォニックス)を2017年12月に発行予定。



### Q1 授業時数はどう変わりますか。

**A1** 3年生以上で, 2020(平成32)年度から年間35時間増えます。また, 移行期間である2018(平成30)・2019(平成31)年度は, 年間15時間増えます。

2020年度から全面实施となる新学習指導要領では, 現在, 5・6年生で行われている年間35時間の外国語活動が, 3・4年生に前倒しになります。5・6年生では, 外国語が教科として導入され, 授業時数は年間70時間となることが示されました。学習指導要領の改訂により, 3年生以上で, 年間35時間, 授業時数が増えることになります。

また, 新学習指導要領の円滑な実施に向けて, 2018・2019年度は移行期間となります。この2年間は, 3・4年生で年間15時間, 5・6年生

で年間50時間の授業実施が標準となります。つまり, 3年生以上で, 年間15時間, 授業時数が増えることになるのです。そのため, 年間総授業時数及び「総合的な学習の時間」の授業時数から, 15時間を減じ, 外国語の授業に充てることができるという特例が, 文部科学省から出されています。

なお, 移行期間には, 新学習指導要領の内容を一部必ず取り扱うとされています。それまでに, 文部科学省が開発している新教材が全国の小学校に配布される予定です。

	移行期間			全面实施
	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(平成31)年度	2020(平成32)年度
3・4年	0	15	15	35
5・6年	35	50	50	70

※数字は, 年間の外国語・外国語活動の授業時数。1単位時間は45分。

## Q2 授業時間を どうやって確保すればよいですか。

**A2** 短時間(モジュール)学習や60分授業も視野に入れて、  
学校の実態に合わせた授業時間を設定しましょう。



年間の授業日数を増やして授業を行う場合は、土曜日の活用や長期休業期間の調整などが考えられます。その体制整備には教育委員会など、行政機関の主導が期待されます。

年間の授業日数を増やすのが難しい場合は、15分×3などの短時間(モジュール)学習や60分授業を設定することが考えられます。

短時間学習では、朝の時間、昼休み前後、放課後の時間など、学校の実態に応じて、創意工夫して設定することが求められます。

短時間学習には、児童が外国語に繰り返し触れられるというメリットがあるので、語句や基

本的な表現を繰り返し聞いたり話したりする活動や、文字を読んだり書いたりする活動ができます。外国語科の特質をふまえ、45分のまとまりのある学習と関連づけて設定することが大事です。

60分授業では、単元の最後に意味のある場面や状況を設定し、深まりのある言語活動を行うことやパフォーマンス評価の時間に充てることも考えられます。

授業時間の設定には、学習内容や時間のまとまりを見通し、指導内容の決定や指導の成果の把握と活用を行う体制の整備が必要です。

## Q3 これから教師がすべきことは何ですか。

**A3** 学校全体で、外国語の時間を確保する計画を立てましょう。

増える授業時数を、全教育課程のどの部分に収めるかは「カリキュラム・マネジメント」であり、教職員全員で考えていくことが必要です。ぜひ来年度から、管理職を中心として、時間を確保するための体制づくりを学校全体で進めたものです。

どのように時間を確保するかを検討するうえで、小学校外国語科の目標や内容の把握は不可欠です。校内研修などを通して「小学校学習指導要領解説 外国語編」や「研修ガイドブック」など資料の読み合わせを行い、学校全体で指導体制の確立を旨とすといでしょう。



それでは、実際に学校の事例を見てみましょう

